



株主のみなさまへ

第79期 決算報告書

2018年4月1日 ▶ 2019年3月31日

より高いコンプライアンス・品質意識を醸成し、改善に全力で取り組むと共に
拡大する市場において着実な成長をめざしてまいります。

品質問題に関するお詫び

当社は2019年3月26日、航空機シート・内装品など製造関連事業にかかわる当社事業部及び生産委託先である(株)宮崎ジャムコにおける不適切な検査業務について公表いたしました。

当社の認定事業場(立川工場)で実施した一部の補用部品販売について、認定事業場外の検査場で受入れ検査を実施しておりました。又、(株)宮崎ジャムコにおいては、検査業務の一部において、検査業務指導者不在時に無資格の検査実習生が検査行為を実施しておりました。

お客さまをはじめ、ステークホルダーの皆さまに、大変なご心配とご迷惑をお掛けしておりますことを心よりお詫び申し上げます。

飛行安全の確保と品質の向上を図るとの経営基本方針を掲げているにもかかわらず、品質上の問題が内在していた事実を重

く受け止め、徹底した原因分析に基づき、再発防止に向けた施策を確実に実行すると共に、より高いコンプライアンス・品質意識を醸成し、改善に全力で取り組んでまいります。

2019年3月期の業績について

2019年3月期、当社グループは世界的な航空・航空機需要の伸びを背景に積極的な事業活動を推進してまいりました。航空機内装品等製造関連においては、ボーイング777X型機向けラバトリーの開発を推進し、同型機向けギャレーについても大手エアラインから受注し開発に着手しました。航空機シート等製造関連においては、KLMオランダ航空向けスタンダード・シートの受注に続く営業活動を進めており、2020年度の収益化を見込んでおります。航空機器等製造関連においては、航空機エンジン部品の増産を進めました。又、金属加工技術を

活かし、内装品の部品の内製化に着手しました。航空機整備等関連においては、品質向上と各種サービスの充実、収益改善に努めると共に、事業領域拡大に向けてANAグループのMRO Japan(株)に資本参加しました。

こうした活動の結果、航空機内装品等製造関連の販売が堅調に推移したことで連結売上高は当初予想を上回る84,068百万円となり、前期から増加しましたが、利益については試験研究費の増加などで経常利益が若干減少、親会社株主に帰属する連結当期純利益は税金費用が減少し、1,910百万円となりました。なお、配当につきましては、1株当たり20円(連結配当性向28.1%)とさせていただきます。

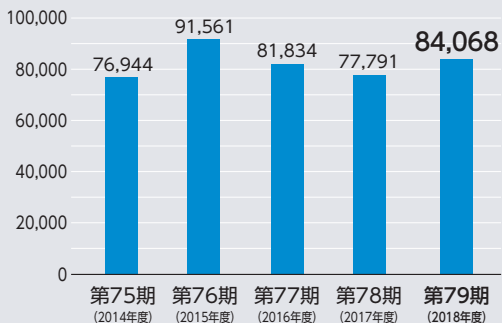
今後も、以前より取り組んでいる業務プロセスの改革、新規分野への投資及び人材育成を継続・発展させ、拡大する市場のなかで着実な成長をめざしてまいります。

代表取締役社長 **大喜多治年**

財務ハイライト

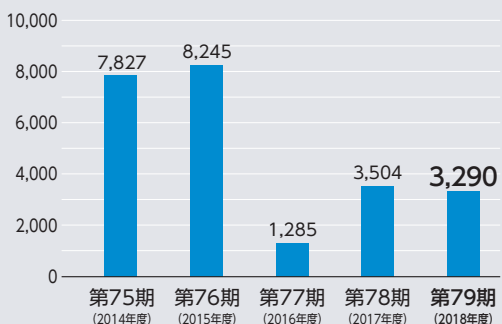
売上高

(単位:百万円)



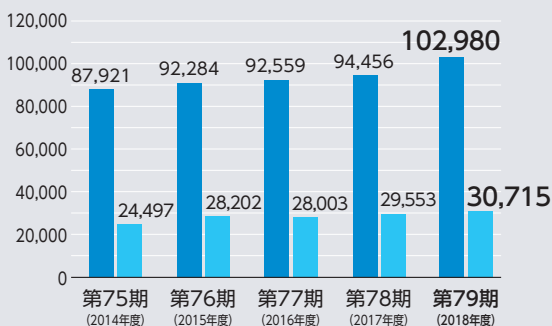
経常利益

(単位:百万円)



総資産／純資産

■ 総資産 ■ 純資産 (単位:百万円)



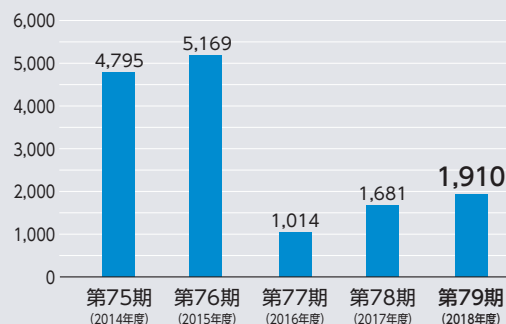
ROA (総資産経常利益率)

(単位:%)



親会社株主に帰属する当期純利益

(単位:百万円)



自己資本比率

(単位:%)



航空機内装品のリーディング・カンパニーをめざして

中期ビジョン

航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の能力を集約し、航空機内装品のリーディング・カンパニーとなる

ジャムコの特長1

進化を続ける確かな技術力

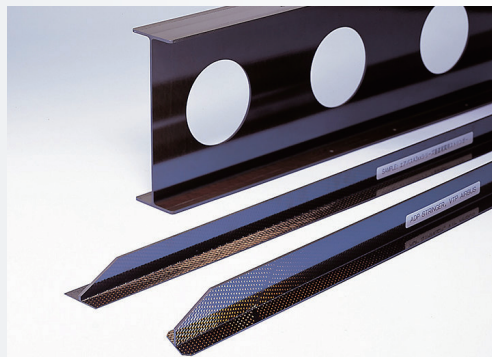
ジャムコは、1955年に伊藤忠航空整備株式会社として創業し、航空機の整備・改造事業を手掛けてきました。1970年代には航空機のギャレー、ラバトリーの開発・製造へと事業を拡大し、今日まで確かな実績を築いています。

又、機器製造事業では、長年の経験により積み重ねてきた当社独自の高度な生産技術



航空機整備作業

と特殊工程技術を活かし、熱交換器や航空機用エンジン部品など、さまざまな航空・宇宙機器製品を製造・供給しています。当社が独自で開発した炭素繊維複合材成形方法のADP (ADvanced Pultrusion) 製法は特許を取得するなど、確かな技術力でお客様のニーズに応え続けてきました。



ADP製品

ジャムコの特長2

世界トップクラスのシェア

ジャムコは、ギャレーでおよそ40%、ラバトリーでおよそ50%*と、確かな世界シェアを獲得しています。

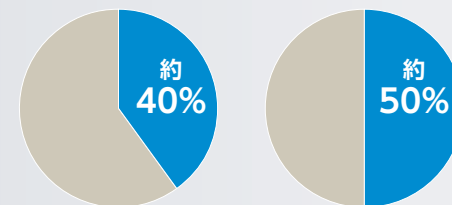
ボーイング社のワイドボディ機に搭載されているラバトリーはすべてジャムコ製です。ボーイング777、787型機には航空機では初となるビデ・システムの搭載を実現するなど、唯一無二の地位を確立しています。

航空機のギャレーには、限られたスペース

ギャレー・ラバトリーのシェア

ギャレーのシェア

ラバトリーのシェア



*いずれも中大型機、当社調べ

士魂商才

技術のジャムコは、士魂の気概をもって

- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めています。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

で効率よく作業をするためのデザインや機能、耐久性が求められる一方で、航空機部品として、「軽量」「難燃」が絶対条件です。ジャムコのギャレーは、こうした厳しい条件をクリアし、国内外100社余りへの納入実績を誇ります。

ジャムコはおよそ半世紀にわたり、高品質を追求するだけでなく、「安全と快適」を提案し続けることで、お客さまの信頼を得ています。



エンハンスド・ギャレー

ジャムコの特長③

新分野への挑戦

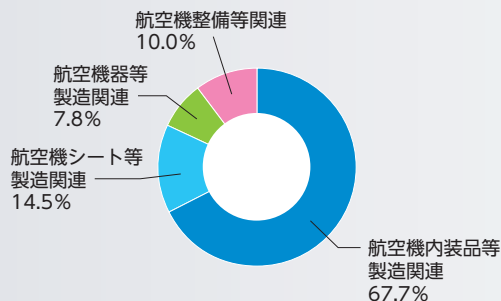
ジャムコでは、長い歴史のなかで培った技術力と対応力を活かして、刻々と変化する各エアラインの要望にも柔軟に応えています。2014年からは、航空機内装品事業での経験を基に、ファースト・クラスやビジネス・クラスのシートの設計・開発・製造を行っています。

ギャレーやラバトリーとは空間や仕様、用途は変わるものの、それらの技術は航空機

シートの分野にも余すところなく発揮されています。プライベートな個室空間として、機能性・効率性・デザイン性・軽量性に優れており、お客さまが最大限にくつろげる最上の空間を提供しています。

ジャムコはこれからも、従来の概念にとらわれることなく航空機の新たな客室を創造し、航空機内装品のリーディング・カンパニーをめざしていきます。

売上高構成比率 (2019年3月期)



ビジネス・クラス・シート [Venture]

拡大する市場のなかで

昨今の航空輸送業界は、世界的な旅客需要の拡大によって格安航空会社（LCC）を交えた競争が激化する一方で、大手エアラインは新規運航路線の獲得や客室サービスの向上、LCCへの参画などの戦略を打ち出しています。又、航空機需要の高まりに伴い、ボーイング、エアバス共に2018年は過去最高の納



入機数を記録。引き続き多くの受注残を抱えています。更に中長期的に見ても、年率4%の割合で市場が拡大し、今後20年で約3万機の新造機が生産されると言われています。又、大型機から中・小型機への移行の流れはありますが、当社が主なターゲットとする中・大型機の需要機数も拡大すると見込まれています。

マーケティング力と技術力を両輪に

こうした環境のなか、当社グループは「航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の能力を集約し、航空機内装品のリーディング・カンパニーとなる」という中期ビジョンのもと、市場拡大を成長機会とすべく、各事業で競争力の強化を図っています。

その核心となるのは、ボーイング社のワイドボディ機に搭載されるラバトリーのシェア100%、全メーカーでも世界の約50%という高いシェアに象徴される主要顧客との信頼関係、マーケティング力と、長年培ってきたデザイン力や機能性、軽量化と耐久性と難燃性を実現する設計・製造、特殊金属加工などの技術力です。こうしたマーケティング、技術の両面を磨くことでワイドボディのギャレー、ラバトリー、シートを含めた内装品分野で売上高の約8割を占める事業を安定的に成長させていきます。

一方で、エアラインによる装備品調達（BFE契約）から機体メーカーによる調達（SFE契約）へ舵を切る動きも顕著で、機体メーカーはサプライヤーに製造コストとリードタイムの削減を厳しく要求しています。これに対応するため、部品の共通化やサプライチェーンマネジメントの強化・合理化といったコスト削減・生産性向上に努めていきます。

注力ポイントを明確化

航空機内装品等製造関連では、主力のボーイング787型機やエアバスA350型機などの増産に伴う需要を見据えたSFE契約

の更新、アフターマーケットの受注拡大に努めると共に、ボーイング777X型機向け製品の開発を推進していきます。又、コスト削減や為替変動リスク対策を含めてフィリピンの生産能力強化のほか、シンガポールでの生産体制を見直していきます。

2014年に新規参入した航空機シート等製造関連では、これまではカスタマイズ・シートがメインであったことから設計・開発コストが重く黒字化には至っていませんが、前期はスタンダード・ビジネス・クラス・シート「Venture」の開発を完了し、生産を開始したほか、大手エアライン向けファースト・クラス・

シートの出荷も開始するなど、さまざまな取組みにより収益化への確かな手応えを感じています。

航空機器等製造関連では、エアバス機向け炭素繊維構造部材や熱交換器などの増産に努めると共に、炭素繊維構造部材については、内装品にも応用すべく研究を進めています。

航空機整備等関連では、高付加価値なMRO (Maintenance, Repair & Overhaul) 事業を強化しており、自社による部品調達・販売、「ホイール・ブレーキ・センター」での受注活動の強化、高圧酸素ボンベの整備事業にも鋭意取り組んでいます。又、

今年度はANAグループのMRO Japan (株)に資本参加しました。

これら施策を通じた2020年3月期の連結業績見通しは、売上高 92,100百万円、営業利益 4,310百万円、経常利益 3,850百万円、親会社株主に帰属する当期純利益 2,630百万円を見込んでいます。なお、前提となる為替レートは1米ドル当たり105円としており、又、配当につきましては、1株当たり25円(連結配当性向25.5%)を予定しております。

持続的な成長をめざして

企業が中長期にわたって持続的に成長していくためには、財務面の強化と同時に、財務諸表に表れない未来の競争力として技術力強化や人財の育成、環境対応、コーポレートガバナンス強化などが不可欠です。

このため、当社グループは、中長期的な成長機会を確保するため各種の施策に取り組んでいます。

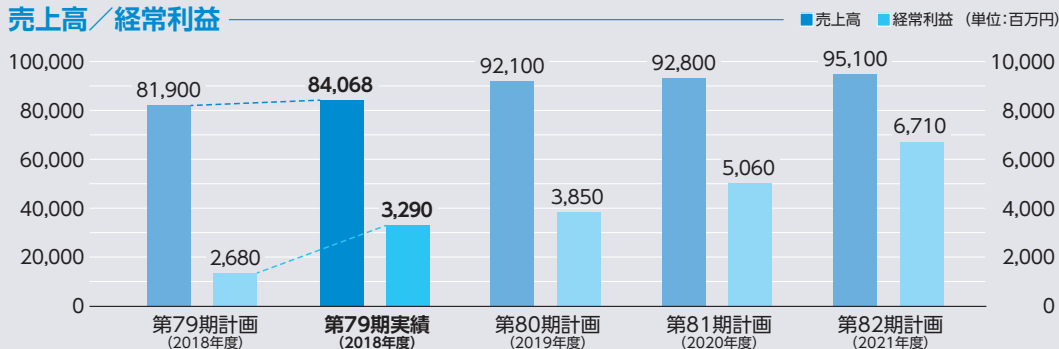
今後も、積極的な情報発信を続け、ステークホルダーの皆さまとの対話を通じて「土魂商才」という経営理念の実践に努めると共に、持続的な成長のための取組みを続けてまいります。

中期経営計画

中期ビジョン

航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の能力を集約し、航空機内装品のリーディング・カンパニーとなる

売上高／経常利益



(注) 中期計画の為替レート 2019~2021年度 105円/USD

アジア市場に向けた近未来のシートとして “座椅子”にヒントを得たコンセプトモデルを発表

2018年11月、シンガポールで航空産業における旅客サービスの国際展示会「FTE Asia Expo 2018」が開催されました。会場で注目を集めたのが、「FUCAMプロジェクト」に日本で唯一参加するジャムコが中心となって開発したビジネス・クラス用シートのコンセ

プトモデル。日本の「座椅子」から発想した座席のユニークなデザインには、短・中距離旅客のニーズに応える“おもてなし”の精神が込められています。その発想や開発プロセスについて、プロダクトイノベーション室の大栗 強が語ります。



コンセプトモデルのイメージ

“座椅子”という発想は どこから来たのですか？

ポイントは、短・中距離航空機でのお客さまの過ごし方でした。日本やアジアのユーザーをリサーチしたのですが、長距離路線では、ユーザーは目的地にいかにか快適な状態で到着できるかを重視しています。つまり時差や

「FUCAMプロジェクト」とは

欧州委員会と経済産業省が推進する「Horizon2020共同開発プロジェクト」の航空機分野のプロジェクトです。アジアの航空機市場に焦点をあて、旅客機客室に求められるデザインコンセプトを確立し、2025年以降にアジア航空機市場に就航する次世代機に成果物となるコンセプトを採り入れることを最終目標としています。2016年2月～2019年1月の期間で、欧州5カ国と日本から9つの企業・研究機関が参加しました。

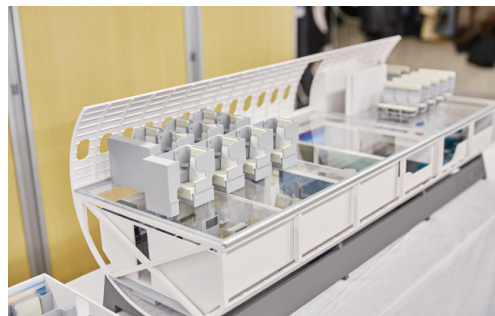
移動の疲れを極力蓄積しないようなフルフラットベッドへの要求が高いのです。

一方、短・中距離のユーザーは、移動手段としてとらえる方が多く、機内での過ごし方は、PCでの軽作業、食事、うたた寝、エンターテインメント鑑賞などさまざまです。こうした多様な行動に快適さを提供するためには、複数の姿勢に対応する座席、広いテーブル面、手が届くところに手荷物が置ける収納などの要件を満たすことが必要です。

ところが既存のシートはクッション面の固さが一様で各作業に最適化されておらず、スペースにも限りがあります。そんな時、姿勢をサポートする座面の高さがあって仕事や食事ができ、かつ映画鑑賞やうたた寝もできる柔らかいクッション性を共存する椅子を思い描いているうちに“ながら作業”ができる座椅子のモチーフと重なったのです。

実現までにどのようなプロセスを経たのでしょうか？ どんなことが印象に残っていますか？

ユーザーニーズと座席に関する最新技術のリサーチを起点に、アイデア出し、デザインコンセプトの確定、基本設計、モックアップ（模型）製作、ユーザー評価といったプロセスで、数カ月ごとにミュンヘン、ヘルシンキ、マド



リード、ハンブルグ、東京でワークショップを開催して進捗を確認する、というのが基本的な進め方でした。

印象に残った事柄は多々ありますが、全体を通じて言えば3つになるでしょうか。一つ目は、各国のスタッフが協力し合っているいろいろな人に声をかけ、プロジェクトに携わっていただいたことです。東京でデザイン案の詰めを実施したワークショップでは、スタッフが意見を出し合うだけでなく、外部の多彩な分野の専門家やエアラインの方々を招いて評価をいただきました。二つ目は、安全・快適性が重視される航空機として当然のことですが、モックアップを活用して5時間座りっぱなしの検証実験を実施したり、あえてベストケースとは異なるであろう高密度な配列にしてみても検証するなど、設計者の思い込みを排除した科学的なアプローチに徹する進め方は印象的でした。三つ目は、エアラインの収益モデルを強く意識したことです。ローデッキ（通常、貨物

室として使われている場所)に設置するシートのデザイン提案では、単に快適なだけでなく、機内販売や食事の追加オーダーなどのサービスとの連携も重要な課題でした。

プロジェクトの成果は 今後のジャムコにどのような 好ましい影響を与えるのでしょうか？

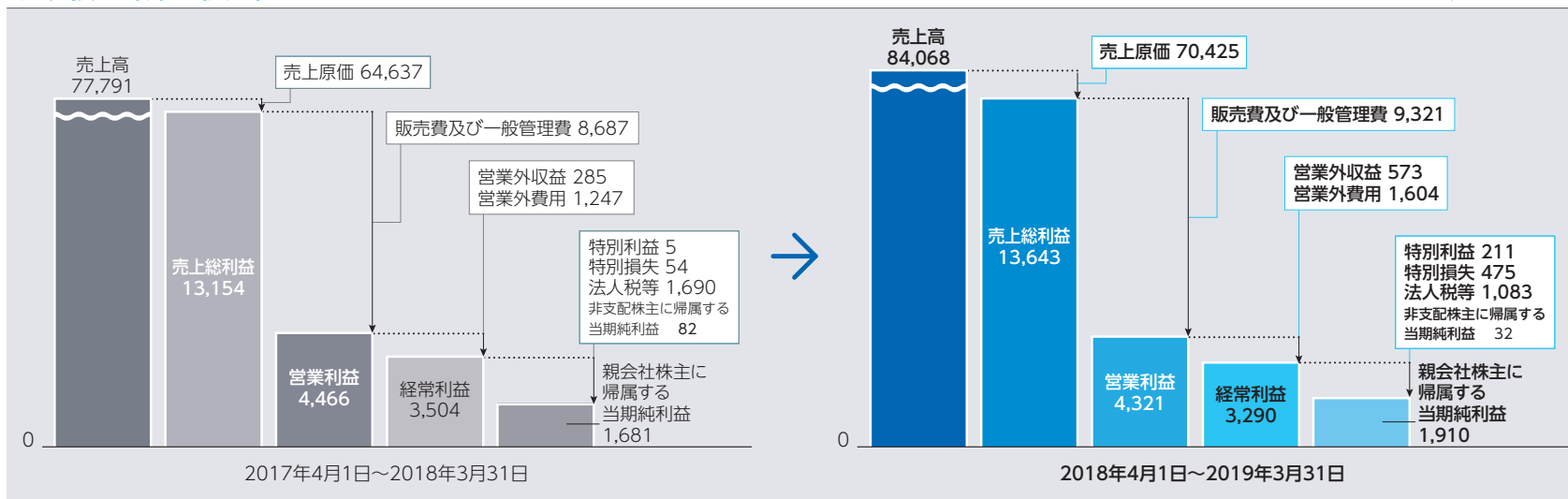
座椅子シートはユーザーからもエアラインからも好評で、将来的に本格採用されたいと思います。加えて当社にとっては、信頼できるパートナーを得られたこと、そしてイノベーションを実現していくための幅広いアプローチや成果物につながる一連の流れを実体験できたこと、更に共同研究したりサーチ機関から最新の研究結果を得られたことなどが、今後の研究開発に応用できる財産だと考えています。

プロダクト
イノベーション室
大栗 強



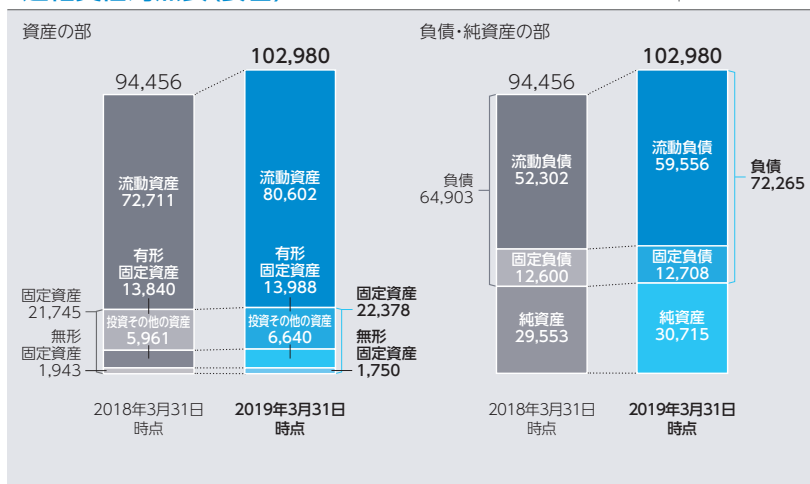
連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)



連結貸借対照表(要旨)

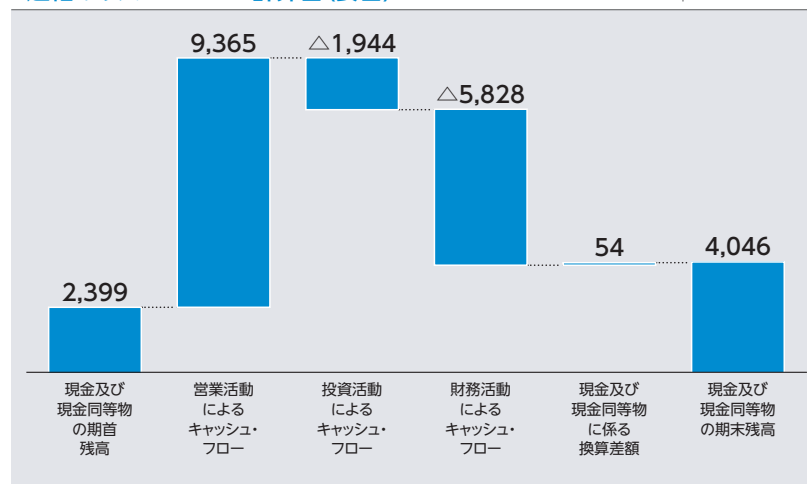
(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

2018年4月1日~2019年3月31日

(単位:百万円)

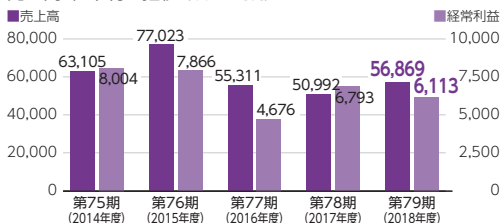


航空機内装品等製造関連

当期

売上高 **568** 億 **69** 百万円
 経常利益 **61** 億 **13** 百万円

売上高・経常利益推移 (単位:百万円)



※ 2014年度から2015年度までは、航空機シート等製造関連の経営成績を含んだ数値となります。

当期のポイント

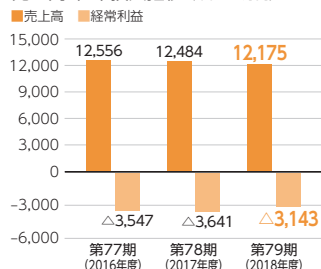
- ボーイング777X型機への移行の端境期で、現行の777型機向けギャレの出荷量が減少
- 客室改修用キットやスペアパーツの販売増加
- エアバスA350型機向け後部ギャレの出荷
- 777X型機の飛行試験用ラトリーの出荷

航空機シート等製造関連

当期

売上高 **121** 億 **75** 百万円
 経常損失 △ **31** 億 **43** 百万円

売上高・経常損失推移 (単位:百万円)



2016年6月28日付で、従来、航空機内装品製造事業で行っていた客室の座席(シート)の開発・設計・製造の事業を独立させ、「航空機内装品製造事業部」、「航空機シート製造事業部」、「航空機器製造事業部」、「航空機整備事業部」の4つの事業部に再編いたしました。

当期のポイント

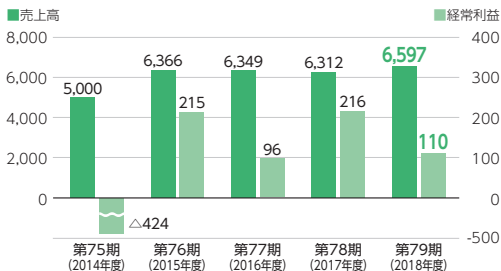
- 一部工事の出荷が翌期以降に繰り延べられたことなどにより売上高は減少
- 生産効率改善による採算性の向上や、前期における一部プログラムの初期コスト増加による影響の反動などにより、損益は改善

航空機器等製造関連

当期

売上高 **65** 億 **97** 百万円
 経常利益 **1** 億 **10** 百万円

売上高・経常利益推移 (単位:百万円)



当期のポイント

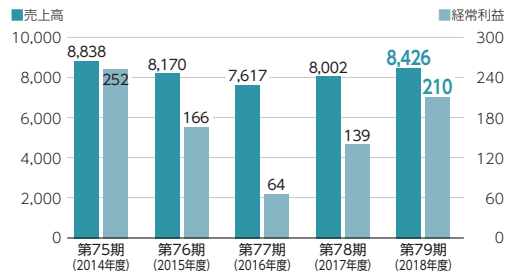
- 納期変更などによる熱交換器等装備品の出荷量減少により、経常利益が減少
- 航空機エンジン部品の出荷量は増加

航空機整備等関連

当期

売上高 **84** 億 **26** 百万円
 経常利益 **2** 億 **10** 百万円

売上高・経常利益推移 (単位:百万円)



当期のポイント

- 機体整備の完成工事が減少したものの、装備品整備が堅調に推移
- 売上高の増加に加え、採算性向上の取組みにより経常利益も増加

当社は、ステークホルダーの皆さまとの信頼関係を大切にし、社会の期待に応えながら持続可能な社会づくりに貢献できるよう努めています。その一環として、環境・社会・ガバナンス(ESG)にかかわる取組みを推進しています。ここでは、その活動例を報告します。なお、当社グループのESG関連情報についてはコーポレートサイト*にも公開しています。

*<https://www.jamco.co.jp/ja/csr.html>

ヒューマンファクターズ教育に注力

当社では、全従業員が高い問題意識を持ち、各職場で「安全第一」を具現化していくためのさまざまな活動に取り組んでいます。その1つとして、人間行動に着眼点をおいたヒューマンファクターズ教育を継続的に実施しています。この教育は、人間の行動と思考の傾向、人間の起こしやすいエラーの要因について学び、品質確保のための確実な行動を考えて身につけるものです。



教育を通じて、従業員一人ひとりが航空機業界に携わるプロフェッショナルにふさわしい知識を習得します。そのうえで、ヒューマンファクターズを意識し、正しく行動することで、確実な品質の提供に日々努めています。

社内情報誌の発行

当社は「クオリティニュース」と題した社内情報誌を毎月発行しています。ヒューマンエラーに起因して起きた不具合の事例の詳細と共に、「どこにエラーがあったのか」を分析して掲載しています。事例を具体的に知ることによって“同じ類のエラーを起こさない・起こさせない”という意識を醸成しています。日本語と英語の2カ国語版を発行し、国内外のグ

ループ各社で不具合削減のために高い効果を上げています。

社外研修への参加

安全への意識の向上を目的に、ANAグループ安全教育センター(ASEC)の研修に従業員が参加しています。研修では「事故の事実と向き合い」「エラーの現実を体験する」「安全堅持への意識を新たにする」という3つのコンセプトに基づき、膨大な資料や現物から過去の航空事故の悲惨さと安全堅持の重要性を学び、安全意識の向上につなげています。又、航空機事故要因の60~70%を占めると言われるヒューマンエラーについても広く学習し、「エラーをいかに回避するか、自分に何ができるか」を考え、確実な業務の遂行につなげています。

(株) オレンジジャムコで職場見学会を実施

(株) オレンジジャムコは、個人や団体からの依頼を受けて職場見学会を実施しています。2018年11月には、東京都国分寺市内にある小・中学校の特別支援学級の先生方30名を迎えました。

会社説明の後、当社工場内をご覧ください。障がいのある従業員の業務内容を詳しく説明しました。先生方から、児童・生徒の将来の職業生活を具体的にイメージすることで教育に役立てたいとの感想を頂戴しました。

オレンジジャムコとは

(株) オレンジジャムコは、障がい者の就労と自立を支援するために設立された当社の特例子会社です。障がいがあっても社会人として等しく生活する機会を与えるべきというノーマライゼーションの理念を鑑み、障がい特性に配慮した職場環境を提供しています。従業員は相互に理解・尊重し合い、自覚と責任を持って仕事に励んでいます。



オレンジジャムコでの作業の様子

CONTRAILプロジェクトが日本オープンイノベーション大賞で受賞

当社の参画するCONTRAILプロジェクトが、内閣府等の主催する第1回日本オープンイノベーション大賞において環境大臣賞を受賞しました。

同プロジェクトは、地球温暖化をもたらす大気変動のメカニズムを解明する大気観測プロジェクトです。営業運航する旅客機に測定装置を搭載し、上空の大気とCO₂濃度を世界各地で観測し続けています。完全自動化された連続測定装置を使ったCO₂の観測

は世界で唯一の取組みであり、当社はそのCO₂濃度連続測定装置と、自動大気サンプリング装置の開発を担当しています。

日本オープンイノベーション大賞は、オープンイノベーションのロールモデルとなる先導的・独創的な取組みを表彰する制度です。同プロジェクトは、旅客機の定期便を用いて定期的・世界的な観測を世界で初めて実現し、パリ協定、SDGs、地球環境の研究にも大きく貢献したことが評価されました。

当社は安定的な観測をバックアップすることを通じて、地球温暖化研究に貢献し続けていきます。



ASE(自動大気サンプリング装置)

会社概況

会社概要 (2019年3月末現在)

商号	株式会社ジャムコ
本店	東京都三鷹市大沢六丁目11番25号
本社	東京都立川市高松町一丁目100番
設立年月日	1949年3月15日
創立年月日	1955年9月1日
主な事業内容	航空機内装品等製造関連 ギャレー、ラバトリー、ギャレー搭載用各種装備品等の製造 航空機シート等製造関連 航空機シート及びシートコンソール等の製造 航空機器等製造関連 熱交換器、航空機用炭素繊維構造部材、民間航空機エンジン部品等の製造 航空機整備等関連 航空機、装備品等の整備・改造
資本金	5,359,893千円
従業員数	連結:3,177名 個別:1,214名

役員／執行役員 (2019年6月26日現在)

代表取締役社長	大喜多 治年	常務執行役員	青木 康成
代表取締役副社長執行役員	大上 克裕	常務執行役員	粕谷 寿久
取締役専務執行役員	木村 敏和	常務執行役員	市原 一義
取締役専務執行役員	加藤 正道	常務執行役員	西宮 和夫
取締役常務執行役員	後藤 健太郎	執行役員	伊田 幸男
取締役常務執行役員	田所 務	執行役員	内城 浩
社外取締役	藤川 寛	執行役員	阿部 行雄
社外取締役	野口 利彦	執行役員	脇 昭博
社外取締役*	鈴木 伸一	執行役員	神山 行雄
社外取締役*	渡辺 樹一	執行役員	大崎 直哉
常勤監査役	磯上 範好		
常勤監査役	蕪木 昇		
社外監査役*	高橋 均		
社外監査役*	渡邊 浩一郎		

※東京証券取引所の規定する独立役員です。

事業拠点 (2019年6月26日現在)

事業所／子会社／関連会社一覧

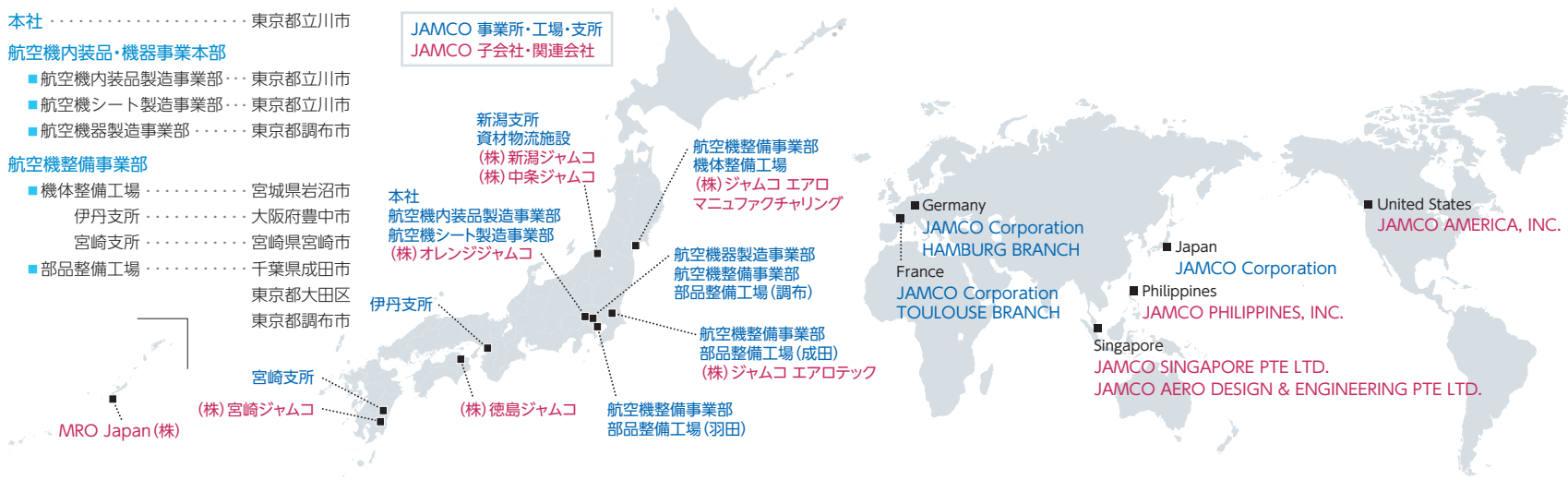
本社 東京都立川市

航空機内装品・機器事業本部

- 航空機内装品製造事業部 東京都立川市
- 航空機シート製造事業部 東京都立川市
- 航空機器製造事業部 東京都調布市

航空機整備事業部

- 機体整備工場 宮城県岩沼市
- 伊丹支所 大阪府豊中市
- 宮崎支所 宮崎県宮崎市
- 部品整備工場 千葉県成田市
- 東京都大田区
- 東京都調布市

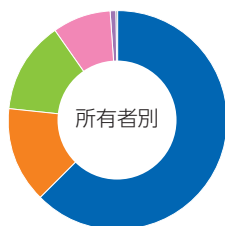


株式の状況 (2019年3月末現在)

株式数・株主数・上場取引所

発行可能株式総数	80,000,000株
発行済株式の総数	26,863,974株
株主数	4,384名
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部(証券コード7408)

株式分布状況



その他の法人	16,802,800株	62.55%
外国法人等	3,784,620株	14.09%
個人・その他	3,649,432株	13.58%
金融機関	2,453,100株	9.13%
金融商品取引業者	135,190株	0.50%
自己名義株式	38,832株	0.14%

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	8,956	33.38
ANAホールディングス株式会社	5,373	20.03
昭和飛行機工業株式会社	2,003	7.46
GOLDMAN, SACHS & CO. REG	1,019	3.80
ジャムコ従業員持株会	387	1.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	372	1.38
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	338	1.26
BNYMSANV RE BNYMIL RE LF RUFFER PACIFIC FUND	300	1.11
JP MORGAN CHASE BANK 385166	295	1.10
三菱商事株式会社	221	0.82

(注) 持株比率は自己株式(38,832株)を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.pronexus.co.jp/koukoku/7408/7408.html (但し、電子公告によることができない事故、その他の止むを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。) なお、計算書類及び連結計算書類に係る情報は、インターネット上の当社コーポレートサイト (https://www.jamco.co.jp/) においてご覧いただけます。

ご注意

- 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできません。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にお問い合わせください。

ジャムコを訪ねて

所在地とその特徴

機体整備工場は宮城県岩沼市、仙台空港の敷地内にあります。岩沼市は江戸時代には旧街道の「宿場町」として賑わっていたと伝えられており、現在も東北地方の交通の要衝として知られています。なかでも仙台空港は、1998年に東北初の3000m滑走路が整備されるなど、東北の国際的なゲートウェイとして発展を続けています。



— 航空機整備事業部 機体整備工場 —

機体整備工場について

機体整備工場は、ジャムコグループで唯一、日々フライトしている航空機を直接取り扱う工場です。防衛省をはじめとして、海上保安庁や警察、防災などで特殊な用途に使用される航空機の重整備、機体改造・改修作業を数多く手掛けています。最近ではこれらの機体の搭載電子機器（アビオニクス）を全面的に換装する改修プログラムを受注しました。更に、航空大学校仙台分校の運航整備や定期整備も一手に引き受けています。

近年、国内エアラインでは、地方空港整備に伴い、燃料効率の良いリージョナル機が積極的に導入されています。この状況に対応するため、機体整備工場では、定期整備や改造などの作業に対応できるサポート体制の強化を続けています。2017年には、品質管理体制の再構築、強化などを目的として、仙台空港を拠点とするアイベックスエアラインズとパートナーシップ協定を締結しました。

整備専門会社として創業したジャムコが長い歴史のなかで培ってきた修理技術は、お客さまから高く評価されています。ときには修理方法を自ら考案してお客さまに提案し、正式な修理方法として確立することもあります。

今後も、飛行安全と品質に高い意識を持つプロフェッショナル集団として、ジャムコグループ全体のブランドイメージである「安全・安心」を追求し続けます。



航空機整備事業部 機体整備工場

住 所	宮城県岩沼市下野郷字新拓70 (仙台空港内)
設 立	1970年6月
敷地面積	32,315㎡
総床面積	約12,300㎡
事業内容	航空機の整備、保守点検、航空機の大修理及び改造等
主な設備	第一格納庫、第二格納庫 (付属棟3階建含む)、事務棟 (3階建)

株式会社 **ジャムコ**

〒190-0011 東京都立川市高松町一丁目100番地
 TEL:042-503-9900 (代表)
 TEL:042-503-9145 (IR 経理財務部)
 TEL:042-503-9146 (広報 経営企画部)

※ 本資料に記載されております当社の計画や予測等は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が独自に判断したものであり、リスクや不確実な要素を含んでおります。そのため、実際の業績につきましては、記載の見通しと大きく異なる結果となることがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありませんのでご了承ください。

※ 本資料で使用している文章、写真等の無断での複製・転載を禁止します。



この冊子は環境保全のため、植物油インキとFSC®認証紙を使用しています。